

40周年記念号の刊行にあたって

足立 拓朗

(金沢大学歴史言語文化学系 (人文学類))

2014年度は金沢大学考古学研究室創設40周年に当たる。それに伴い、11月1日には40周年記念大会を金沢大学サテライトプラザで開催した(図1, 2)。そして本書、『金沢大学考古学紀要』第36号は40周年記念号として刊行した。本紀要は、金沢大学考古学研究室の教員・大学院生・卒業生、そして研究室を訪れて研究交流を行った方の論文を掲載してきた。30周年記念号(27号:2004年6月刊)のような大部の記念号とはなかったが、本号では例年より多くの執筆者の原稿を掲載することができた。

紀要27号に研究室創設から2004年までの経緯は紹介されているので(佐々木ほか2004)、ここでは、2014年までの出来事について述べたい。

2004年時点での文学部考古学研究室(講座)の教員は、佐々木達夫、高濱秀、藤井純夫、中村慎一の4名であった。しかし、2008年度に行われた金沢大学の全学改組にともない、学部がなくなり学類制度がスタートした。考古学研究室は人文学類の歴史文化コース考古学専門分野として位置づけられた。

この考古学専門分野には、佐々木・高濱が所属し、藤井・中村は新しく創設された人文学類フィールド文化学コースのフィールド文化学専門分野に異動することになった。

その後、1977年度の着任から長きにわたって研究・教育活動を指導してきた佐々木達夫が2011年度末を

もって退職した。退職にあたっては、盛大な最終講義・退職記念会が催され、退職記念論文集『考古学と陶磁史学』が刊行された(図3)(佐々木達夫先生退職記念事業実行委員会2011)。

佐々木の退職に伴い、考古学研究室の所属教員は一時的に高濱1名となったが、2011年10月に足立拓朗が着任し、2名体制に復した。足立は青山学院大学助手、帝京平成大学専任講師、中近東文化センター主任研究員を経て、金沢大学に准教授として転任した。専門は西アジア考古学であり、主な業績として、『鉄器時代西アジアの文化変容』(同成社、2012)がある。

2013年度末には、今度は高濱秀が定年により退職することになり、佐々木の際と同様に盛大な最終講義・退職記念会が行われた。同時に『ユーラシアの考古学』が退職記念論文集として六一書房から刊行された(図4)(高濱秀先生退職記念論文集編集委員会2013)。高濱の退職により、考古学研究室の教員は足立1名となり、現在に至っている。

2008年度以降、藤井・中村はフィールド文化学専門分野に移っているが、考古学専門分野の学生は藤井・中村の開設する授業を選択必修科目として履修することが可能である。同時にフィールド文化コースの学生が考古学専門分野の授業を選択することも可能となっている。

また、金沢大学附属の国際文化資源学研究センター



図1 40周年記念大会で発表する佐々木達夫先生



図2 40周年記念大会の参加者

には、中南米考古学が専門の中村誠一、中国考古学専門の秦小麗、東南アジア考古学専門の山形真理子、縄文時代を専門とする吉田泰幸が在籍している。加えて、フィールド文化学専門分野には博物館学関連科目の担当として、コーカサス地域の文化遺産を専門とする有村誠が所属している。このように、現在の金沢大学には8名の考古学系教員が勤務しており、日本国内において特異な存在となっている。

ただ、海外の考古学を専門とする教員が多く、学類生の多くが卒業論文で取り組む研究テーマとは乖離がある。2014年度の卒業論文のテーマは、縄文時代3本、古墳時代1本、中世1本、近世1本であり、海外考古学をテーマとして選択している学生はいなかった。2014年度卒業生には他大学であるが考古学の大学院に進むものが1名、また修士課程修了者では埋蔵文化財関係に就職が決まっているものが1名いる。

今後は金沢大学の強みである海外考古学の研究・教育活動をさらに発展させていくとともに、北陸における埋蔵文化財・生涯教育の面で、より一層の貢献を果たしていかなければならない。

前者の活動については、佐々木が在籍中に例年実施していたヘレニズム～イスラーム考古学研究会を改めて金沢大学で開催できるように精励している。また後者の活動として、2014年度から金沢市内の御所八ッ塚古墳群での測量調査を開始している。これらの活動

が継続的に実施できるように努めながら、新たな活動にも取り組み、研究室のさらなる発展を図りたい。

本書、『金沢大学考古学紀要』は、金沢大学付属図書館学術情報リポジトリ KURA で、冊子体版と同じ内容、レイアウトの PDF（カラー版）で無料一般公開している（<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/>）。また、考古学研究室では Web 版の小雑誌『金大考古』も刊行している。こちらは研究室主催の考古学大会で発表された小論考、研究ノートなどを中心に編集しているが、ある程度は頁数に制限なく掲載できることが特徴である。これも KURA および研究室のホームページで無料一般公開している。ご覧いただければ幸いです。

参考文献

- 佐々木達夫先生退職記念事業実行委員会 2011『考古学と陶磁史学』佐々木達夫先生退職記念論文集 金沢大学考古学研究室。
- 佐々木達夫・高浜秀・藤井純夫・中村慎一 2004「金沢大学文学部考古学講座・30周年」『金沢大学考古学紀要』27号 1-3頁。
- 高濱秀先生退職記念論文集編集委員会 2013『ユーラシアの考古学』高濱秀先生退職記念論文集 六一書房。



図3 『考古学と陶磁史学』表紙

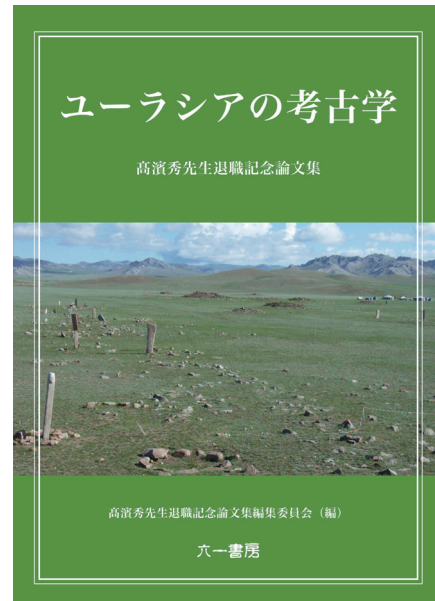


図4 『ユーラシアの考古学』表紙